

第3章 全体構想

3-1 都市づくりの理念と基本方針

(1) 都市づくりの理念

① 都市の将来像

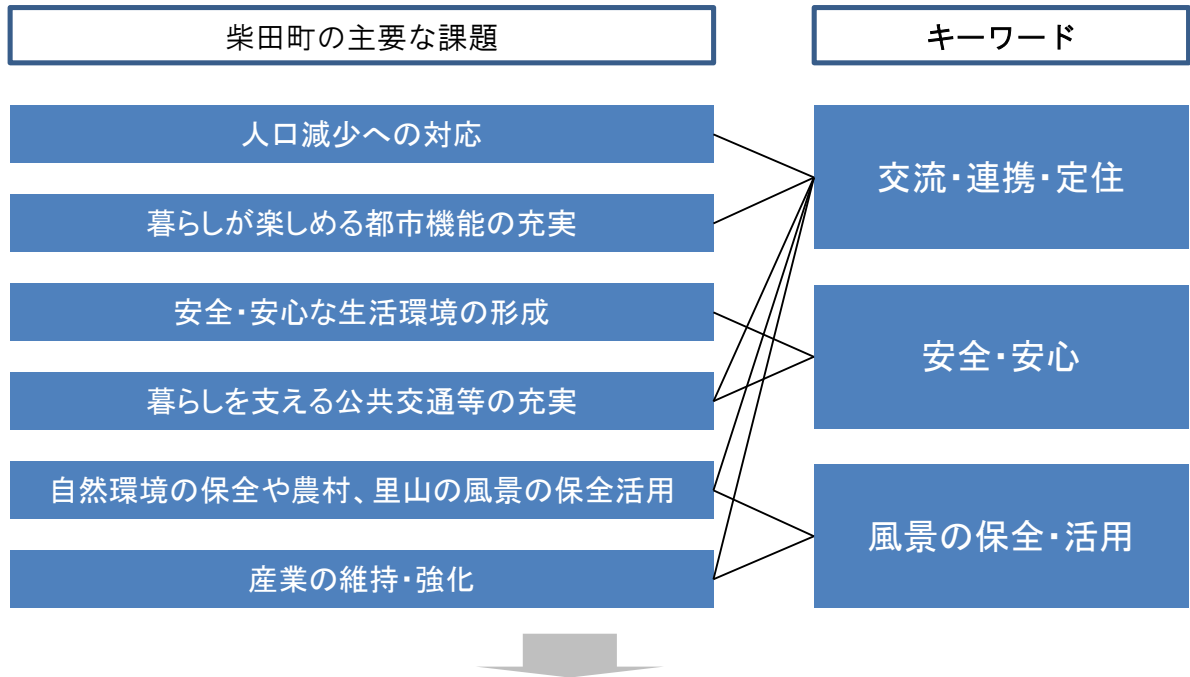
都市計画マスタープランの将来像は、上位計画である県の「仙南広域都市計画マスタープラン」、「仙南地域広域景観計画マスタープラン」と本町の「第6次柴田町総合計画」に掲げられる都市づくりの基本的な方向性を踏まえ設定します。

■都市づくりの基本的な方向性（上位計画）

仙南広域都市計画マスタープラン	仙南地域広域景観計画マスタープラン	第6次柴田町総合計画
<p>■将来像</p> <ul style="list-style-type: none"> ・蔵王連峰に抱かれた地域資源を活かして、圏域内外の人と文化が交流し、安心して住み続けられる広域生活圏の形成 <p>■都市づくりの基本的な方向性</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 都市間の交流、資源の共有により、個性豊かな都市が連携する一体的な都市圏づくり 2. 広域交通の利便性、美しい自然環境と歴史・文化を活かした魅力ある産業地づくり 3. 災害に強く、生活サービス機能が集約した、安全で質の高い暮らしやすい生活空間づくり 	<p>■景観形成に係る基本理念</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 蔵王連峰の山岳景観を象徴とした山や川が織り成す自然景観と、仙南地域の風土とともに人々が生きてきた営み、歴史・文化が一体となって作り出している景観は、仙南地域らしさを表徴するものであり、その姿が失われないよう保全、継承します。 2. 仙南地域の景観は、地域に賑わいをもたらすものであり、その魅力を高めるよう景観づくりを進めるとともに、地域の活性化にも資するようその活用を図ります。 3. 蔵王連峰や阿武隈山地等の山岳及び阿武隈川や白石川等の河川とともに育まれた人々の営みが作り出す景観は、仙南地域らしさを表わすものであるという認識の下、その誇りを受け継ぎながら、景観形成に取り組みます。 	<p>■まちの将来像</p> <ul style="list-style-type: none"> ・笑顔があふれ 誇りと愛着を育む花のまち <p>■まちづくり基本理念</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 住民が安全に、安心して暮らせるまちづくり 2. 住民の一人一人が個人として尊重され、住民の思い及び活動が生かされるまちづくり 3. 先人が築いてきた文化、伝統等を大切にし、地域の個性を生かしたまちづくり 4. 多様な団体及び個人が交流し、又は連携し、住民がお互いに助け合う思いやりのあるまちづくり 5. 住民であることの誇り及びまちの良さを子どもたちに引き継ぐまちづくり

■都市づくりの主要な課題

都市づくりの基本的な方向性と解決すべき主要な課題から将来像を次のとおり定めます。



■都市づくりの基本目標と将来像

解決すべき柴田町の主要な課題と、取組の3つのキーワードから基本目標を設定します。

<基本目標1>

交流・連携・定住

交流・連携を育むコンパクトなまちづくり

コンパクトに発展してきた都市において、居住、働き、学び、楽しみ、憩うなど様々な顔を持ったまちが調和し、柴田町に暮らす人、働く人、訪れる多くの人々が、住み続けたい、住んでみたい、訪れてみたい快適な都市づくりを進めます。

<基本目標2>

安全・安心

豊かな自然と共生し、安全・安心のまちづくり

柴田町の魅力の源泉である豊かな自然環境は、時に災害リスクに成りえるという2つの要因であることを受け入れながら、豊かな自然が美しい柴田町に住みたい、住み続けたいと思える安全・安心の都市づくりを進めます。

<基本目標3>

風景の保全・活用

花と緑につつまれた、笑顔あふれるまちづくり

先人より受け継がれてきた美しい自然環境を保全するとともに、そのなかでこれまで築いてきた文化、伝統、暮らしの風景を大切に、新たな文化を創造し続ける都市にふさわしい風格を備えた都市空間を形成します。

今後の都市のあるべき姿（将来像）を、次のとおり定めます。

<将来像>

花と緑豊かで安心して快適に住み続けられるまち ～四季折々の彩と賑わいのあるガーデンシティ～

柴田町では、「花のまち柴田」をテーマに、船岡城址公園と白石川堤の桜、白石川や阿武隈川の四季折々の水辺の風景、市街地から眺める雄大な蔵王連峰など、先人より受け継がれてきた美しい自然景観の保全や環境づくりに取り組んできました。市街地では、こうした美しい自然と共生しながら、東北本線の船岡駅・槻木駅、国道4号、県道114号線沿線などを中心として、コンパクトな市街地を形成してきています。

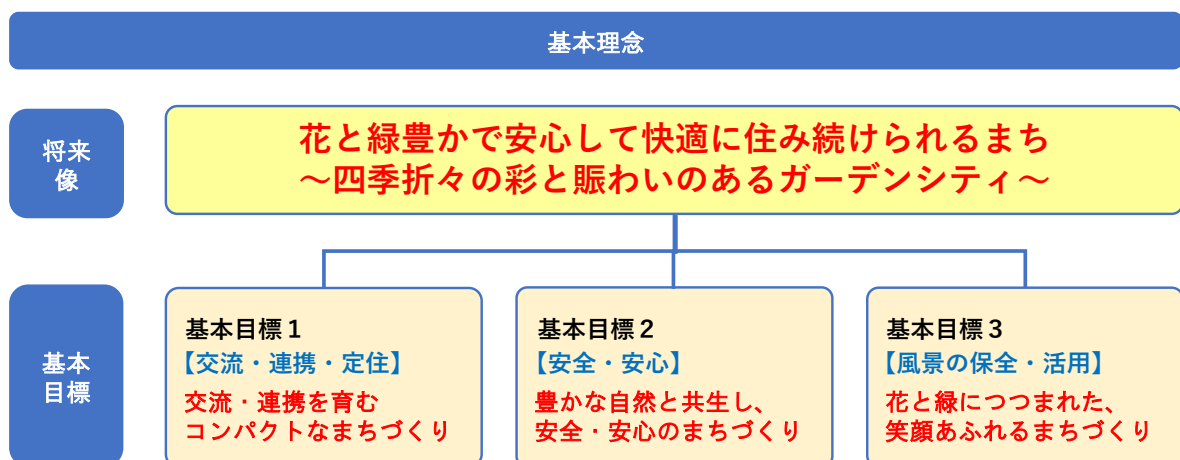
しかし、豊かな自然は、時として暮らしの脅威となる可能性を秘めており、近年では台風や豪雨による浸水被害が発生しています。さらに、本町においても、人口減少・少子高齢化が進む中、これまで以上に防災・減災に向けた取り組みが求められてきています。

そのため、これからの都市づくりでは、人口減少・防災減災などの主要な課題に対応しながら、これまでの自然と調和した市街地を活かしつつ、さらなるコンパクト化と都市機能の質の向上に取り組んでいきます。

さらに、これまで取り組んできた「花のまち柴田」というテーマを継承した新たな将来の都市像を「ガーデンシティ構想」として、安全な地域へ市街地を誘導しながら、花や緑あふれる景観が一体となって、四季折々の彩を身近に感じることができ、快適で賑わいのある都市を創造していきます。

② 基本理念

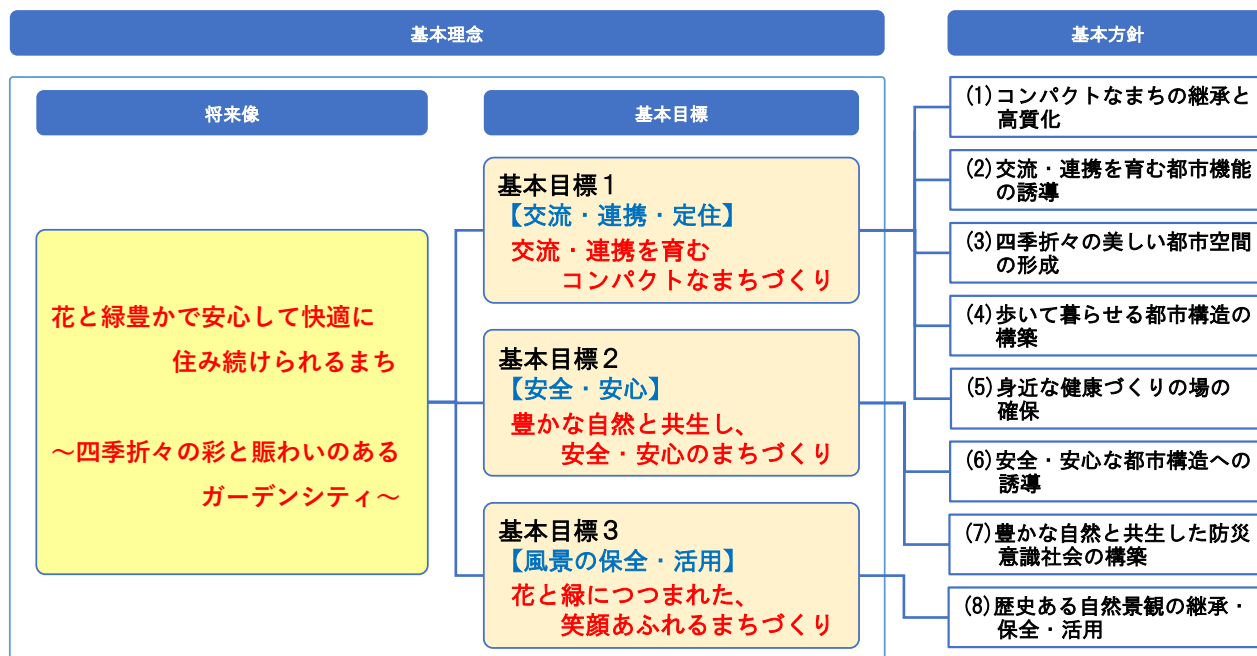
将来像とそれを実現するための3つの基本目標を設定し、都市計画マスタープランの基本理念とします。



(2) 都市づくりの基本方針

都市づくりの基本方針に定める事項を示します。

■基本方針の体系



基本方針 1

交流・連携を育むコンパクトなまちづくり

〈コンパクトなまちの継承と高質化〉

柴田町はコンパクトな市街地に都市機能（医療・福祉・商業等生活サービス機能）が分散配置され、利便性のあるまちがつくられてきました。一方で、無秩序な市街地の拡大は、人口減少社会では中心市街地の空洞化につながることを意味し、利便性の低いまちに変わると予測されます。

現在の利便性の高いコンパクトな都市構造を継承しながら、さらに利便性の高い都市機能を誘導するため、都市機能や居住を誘導するエリアを定めます。

〈交流・連携を育む都市機能の誘導〉

高齢化が進む柴田町では、子育て、働く世代が定住できる町として、交流・連携を育む都市機能の誘導を検討していくことも求められます。

子育て、働く世代が子育てしながら働きやすい環境とするため、子供を預けても生活しやすい町、近くに親がいる環境、地域で関わりがある町としていくため、既存市街地に交流・連携を育む都市機能を誘導していきます。また、デジタル技術を積極的に活用することによ

り、町民生活の利便性の向上を図っていきます。

〈四季折々の美しい都市空間の形成〉

柴田町は、仙台市の通勤生活圏であるという地理的優位性を活かし、ベッドタウンとしても発展してきました。高齢化が進み、次第に日中の活動を行う人が増えてきており、これからの時代に対応するため、都市施設やまちなかのオープンスペースを活用したグリーンインフラを整備し四季折々の美しい都市空間を形成し、歩くことが楽しい、ウォーカブルな空間のなかで日常も楽しみ、豊かに暮らせる市街地としてのまちづくりを目指していきます。

〈歩いて暮らせる都市構造の構築〉

本町の公共交通は、鉄道、デマンドタクシー及びタクシーが担っています。今後の柴田町は、子育て世代から高齢者までの日中の活動を活発化させ、豊かに暮らせるまちづくりに転換していくため、公共交通と自転車やシニアカーなど暮らしを支える交通手段のネットワークを形成し、歩いて暮らせるまちづくりを目指します。

公共交通の結節点となる東船岡駅周辺は、交通機能を活用できるような整備のありかたを検討していきます。周辺の既存集落についても、市街地の生活サービス機能へのアクセス性の向上を図るため公共交通サービスのあり方を検討していきます。

〈身近な健康づくりの場の確保〉

まちなかの身近な範囲に、子供が元気に遊びまわり、親子が楽しむ場を創出する取り組みを進め、笑顔あふれる暮らしの風景が見えるまちづくりを目指します。そのフィールドとなる公園に設置してある施設は、老朽化が進んでいることに加え、多様化するニーズに対応できていないことから、長期的な維持管理計画のもと、官民が連携して多様なニーズに対応した、訪れる人々に笑顔があふれる公園整備を推進します。

基本方針 2

豊かな自然と共生し、安全・安心のまちづくり

〈安全・安心な都市構造への誘導〉

土砂災害危険区域については災害被害の低減に必要な対策を進めます。洪水浸水範囲については、浸水対策を図るとともに、避難場所、避難路の整備を進めます。

将来的には、災害リスクの低いエリアに居住及び都市機能の誘導を図り、安全・安心な都市構造へと転換を図っていきます。

〈豊かな自然と共生した防災意識社会の構築〉

SDGs を目指して環境負荷の少ない都市生活を営むことにより、水と緑の豊かな自然環境と共生し、町民の学習や憩いの資源として活用、管理して、次世代に継承していきます。

土砂災害や洪水災害に対して、防災機能や避難環境の充実を図るとともに、災害と共生しながらも安心して暮らせるまちづくりを目指します。

自助共助に対する意識啓発を進めるとともに、地区ごとの特性を考慮した自主防災組織等の育成強化を進め「水防災意識社会」の構築、防災減災意識の向上を図ってまいります。

基本方針 3

花と緑につつまれた、笑顔あふれるまちづくり

〈歴史ある自然景観の継承・保全・活用〉

町の眺望点から眺めることのできる蔵王連峰や豊かな田園風景、白石川沿いや船岡城址公園にかけての一目千本桜、船岡城址公園から船岡市街地にかけて新たに育まれる桜回廊、船岡市街地や槻木市街地の歴史的を感じさせる佇まいを後世に引き継ぐために必要な景観保全・活用の取り組みを進めます。

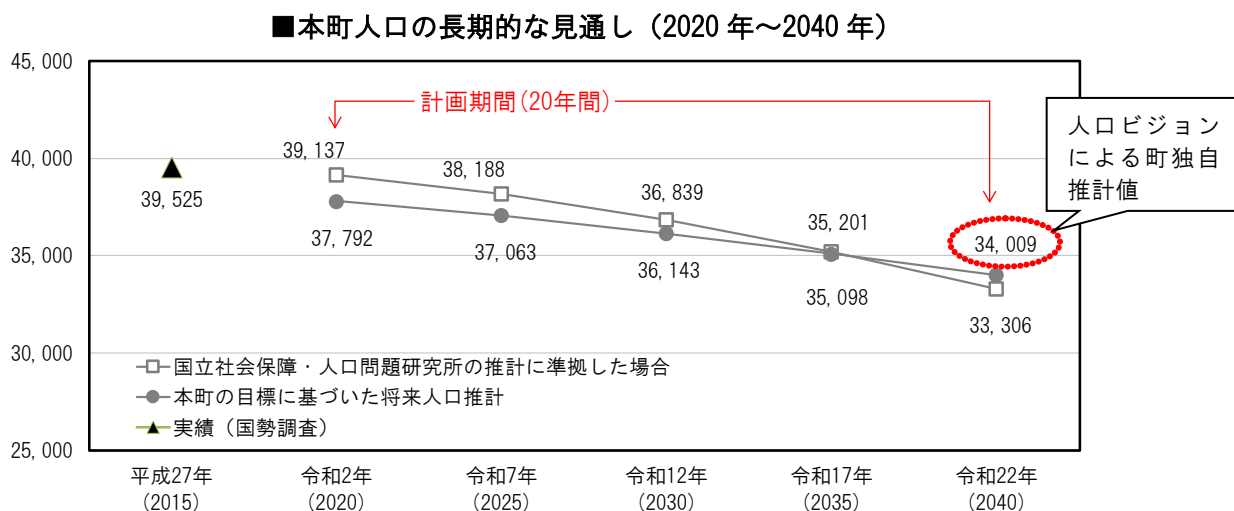
3-2 将来人口

本町の人口の見通しは、「国立社会保障・人口問題研究所（平成 30（2018）年推計）」によると、平成 27（2015）年の 39,525 人（国勢調査）から、令和 22（2040）年には 33,306 人へと減少することが見込まれています。

人口減少が続くことによって、生産年齢人口の減少は地域経済の縮小や労働力人口の減少、担い手不足による地域の活力や集落機能の低下をもたらすばかりではなく、社会基盤整備や社会保障費等による行財政の悪化など、様々な影響が懸念されます。

こうした流れを少しでも食い止め、本町の将来に明るい展望を開くため、国の地方創生の取り組みと合わせて、平成 27 年に「柴田町人口ビジョン」、令和 2 年には「第 2 期柴田町まち・ひと・しごと創生総合戦略」を作成し人口減少に歯止めをかけ、令和 22 年（2040 年）に人口 34,000 人を目標に掲げています。

都市計画マスタープランの将来のあるべき姿を描くにあたり、将来の都市経営は、施策の整合性を踏まえ、人口ビジョンに掲げる人口 34,000 人を目標として設定します。



資料：柴田町、国立社会保障人口問題研究所（平成30年推計）

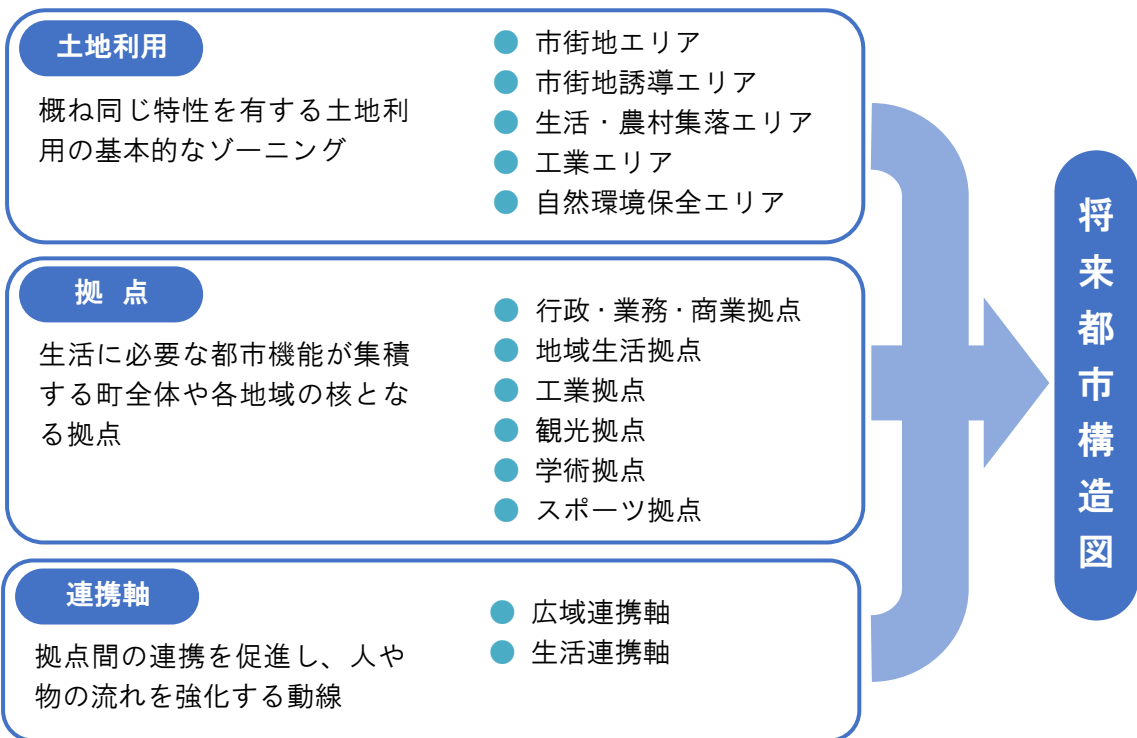
3-3 将来都市構造

(1) 将来都市構造の考え方

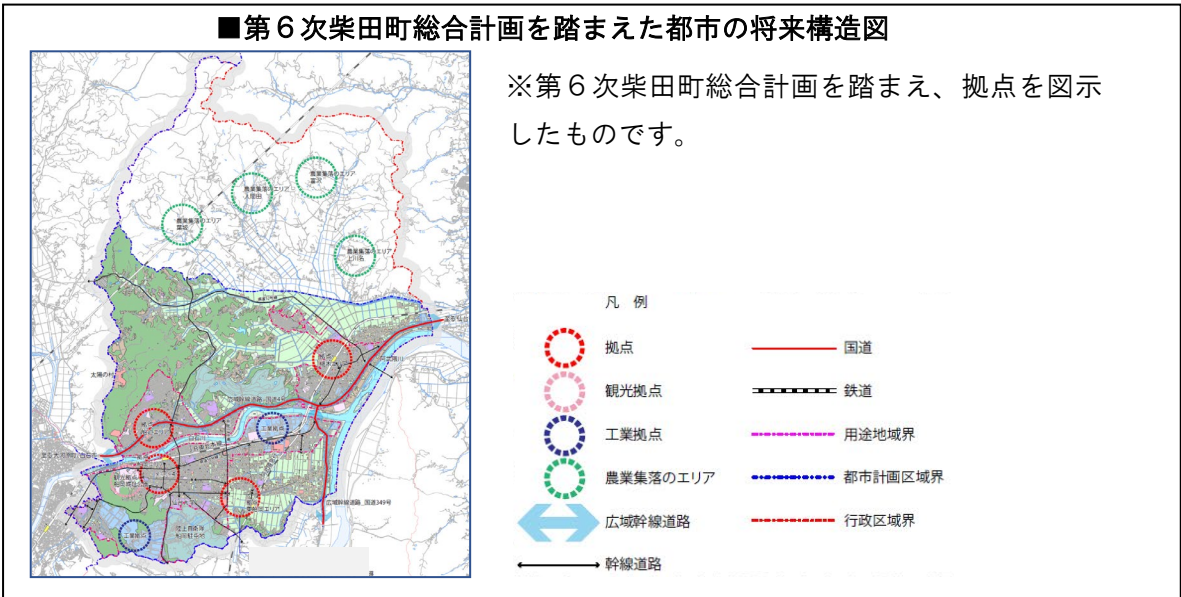
町域全体の将来都市構造は、将来都市像の実現に向けた都市づくりの基本理念に即した施策を展開するにあたり、骨格的な土地利用区分や都市施設の配置、そして主要な都市機能を集積する拠点の位置付けなど、具体的な都市づくりの基本となるものです。

本計画では、第6次柴田町総合計画に示される都市の将来構造を踏まえながら、骨格的な『土地利用』、都市の核となる『拠点』、各拠点を連携するネットワークとなる『連携軸』を以下のように設定し、将来都市構造とします。

■将来都市構造図の考え方



■第6次柴田町総合計画を踏まえた都市の将来構造図



(2) 都市構造の配置・形成方針

① 土地利用の配置・形成方針

■土地利用の配置・形成方針

区分	土地利用の配置・形成方針	上位・関連計画による位置づけ	
土地利用	市街地 エリア	●用途地域の指定範囲 ・住民生活の利便性が高く、今後とも住居、商業等の都市的土地利用を図ります。	・区域 MP ・景観 MP ・総合計画 ・立適
	市街地誘導 エリア	●槻木地区の四日市場地区（誘導区域設定地区） ・市街化が進行して四日市場地区については、住民生活の利便性が高く、洪水浸水等の危険性が低い地区であることから、住居の都市的土地利用を図る地区と設定します。 ●東船岡地区の東船岡駅周辺、大沼通線沿線（誘導区域設定地区） ・市街化が進行している東船岡地区の東船岡駅周辺、大沼通線沿線については、今後の望ましい土地利用の方向性を検討していきます。当面は、土地利用の制限を目的とした用途地域の指定を検討します。	・総合計画 ・立適
	生活・農村 集落エリア	●市街地エリア外側の農地が広がるエリア ・無秩序な市街地の開発を抑制するとともに、営農環境の保全を図ります。	・景観 MP ・総合計画
	工業エリア	●船岡工業団地と神明堂工業団地周辺 ・未利用地については、恵まれた交通条件を生かし、地域への波及効果の高い産業や成長産業などの立地誘導を図ります。	・区域 MP
	自衛隊 駐屯地	●自衛隊駐屯地 ・自衛隊駐屯地により構成される土地です。	
	自然環境保 全エリア	●生活・農村集落エリアの森林が広がるエリア ・良好な自然環境の保全を図ります。	・景観 MP

注) 上位計画等による位置づけ欄凡例

- ・区域 MP：仙南広域都市計画区域マスタープラン
- ・景観 MP：仙南地域広域景観マスタープラン
- ・総合計画：第6次柴田町総合計画
- ・立適：柴田町立地適正化計画の検討による位置づけ

■土地利用の配置・形成方針図



② 拠点の配置・形成方針

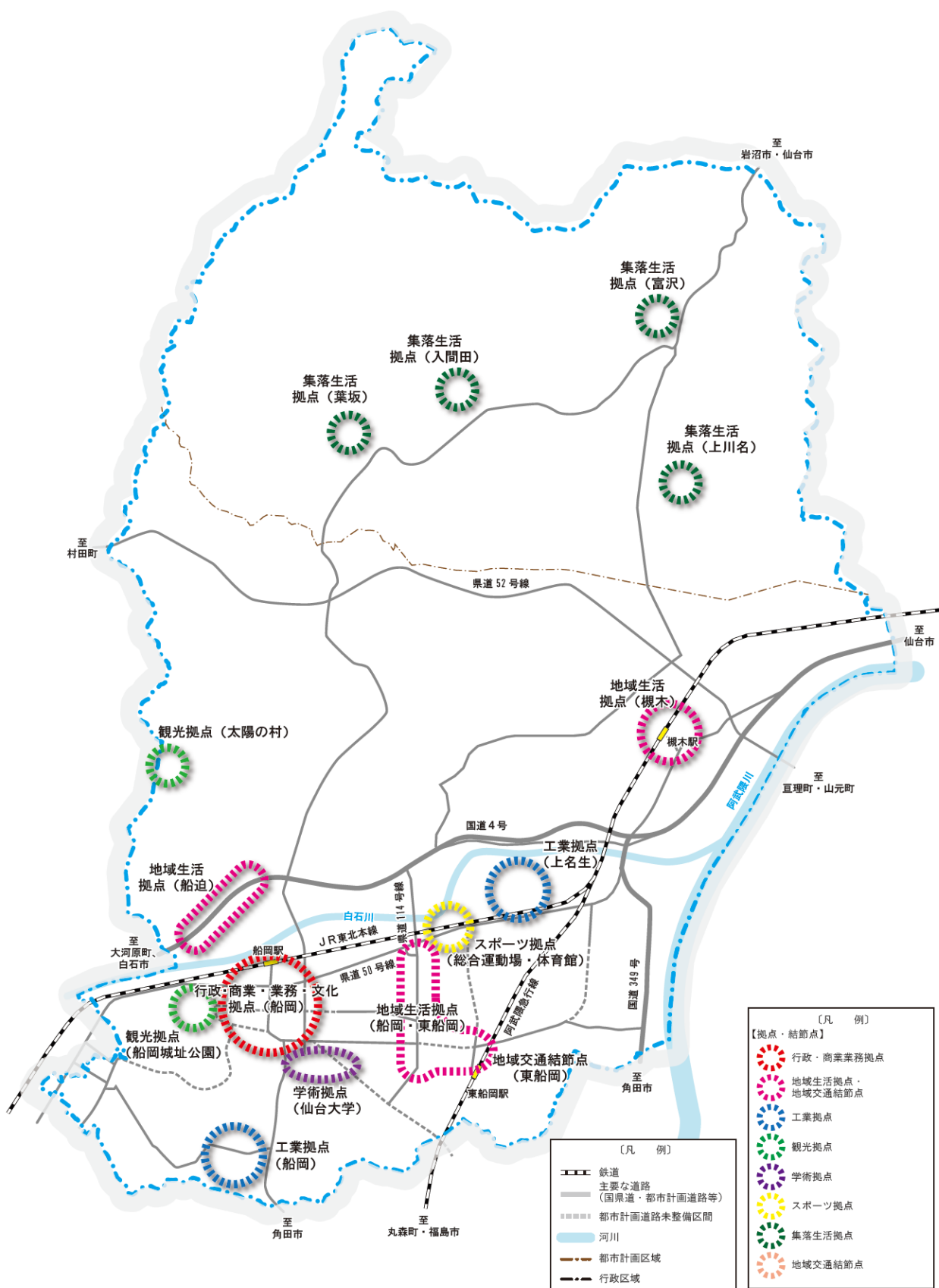
■ 拠点の配置・形成方針

区分	拠点の配置・形成方針	上位・関連計画による位置づけ	
拠点	行政・商業・業務・文化拠点	<ul style="list-style-type: none"> ● 町役場、図書館、船岡駅周辺 ・ 柴田町の商業・業務・行政・文化などの機能が立地する町役場から船岡駅周辺を行政・商業・業務・文化拠点とします。 ・ 柴田町の顔として地域の再生や活性化などに取り組み、魅力的な拠点の形成を図ります。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 区域 MP ・ 総合計画 ・ 立適
	地域生活拠点	<ul style="list-style-type: none"> ● 槻木駅周辺、船迫地区国道4号沿線、大沼通線沿線 ・ 行政・商業業務拠点と連携しつつ、各地区の生活を支える都市機能を集積する拠点とします。 ・ 地域の特性に応じて、商業・業務施設や公共施設等の集約を図ります。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 総合計画 ・ 立適
	工業拠点	<ul style="list-style-type: none"> ● 神明堂工業団地、船岡工業団地 ・ 神明堂工業団地及び船岡工業団地を工業拠点と位置づけ、周辺の環境に配慮した産業を誘導し工業拠点の形成を図ります。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 区域 MP ・ 総合計画
	観光拠点	<ul style="list-style-type: none"> ● 船岡城址公園、太陽の村 ・ 船岡城址公園及び太陽の村は、観光を通じて町内外の交流・滞在人口の増大を図るための拠点とします。 ・ 各施設の特性に応じた観光レクリエーション機能の向上を図ります。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 区域 MP ・ 総合計画
	学術拠点	<ul style="list-style-type: none"> ● 仙台大学、県立船岡支援学校 ・ 仙台大学、県立船岡支援学校は、心と体の健康に対する情報発信、町内外の交流の増大を図るための拠点とします。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 立適
	スポーツ拠点	<ul style="list-style-type: none"> ● 総合体育館建設予定地周辺 ・ 総合体育館建設予定地周辺は、総合運動場を含めスポーツ活動の拠点として、災害時の防災機能を有する場とします。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 総合計画 ・ 立適
	集落生活拠点(都市計画区域外)	<ul style="list-style-type: none"> ● 集会所周辺 ・ 都市計画区域外の農業集落について、集会所とその周辺を集落のコミュニティ活動の拠点として位置づけます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 総合計画

注) 上位計画等による位置づけ欄凡例

- ・ 区域 MP：仙南広域都市計画区域マスタープラン
- ・ 景観 MP：仙南地域広域景観マスタープラン
- ・ 総合計画：第6次柴田町総合計画
- ・ 立適：柴田町立地適正化計画の検討による位置づけ

■拠点は配置・形成方針図



③ 連携軸の配置・形成方針

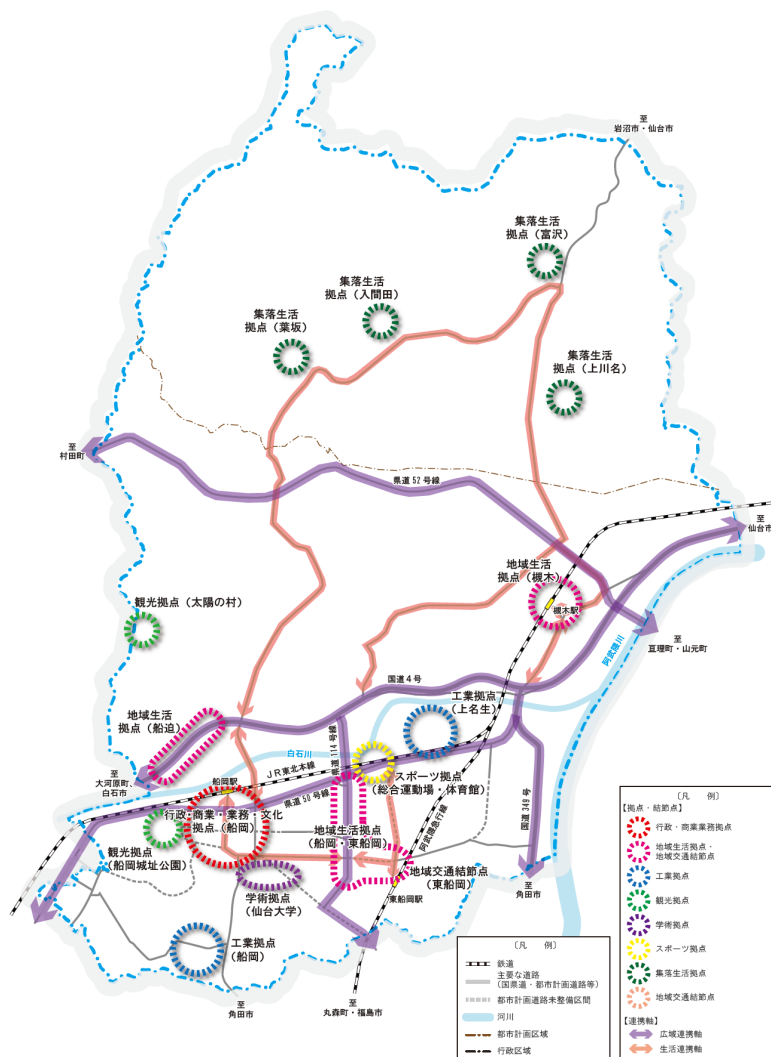
■連携軸の配置・形成方針

区分	連携軸の配置・形成方針	上位・関連計画による位置づけ
広域連携軸	<ul style="list-style-type: none"> ●国道4号、国道349号、県道50号線、県道52号線、県道114号線、鉄道 ・仙台及び仙南地域市町との連携を図るための道路、鉄道の保全を図るとともに利用の促進を図ります。 	・区域MP
生活連携軸	<ul style="list-style-type: none"> ●幹線町道、都市計画道路 ・主要拠点間の連携を図るための道路の整備、保全を図ります。 	・総合計画

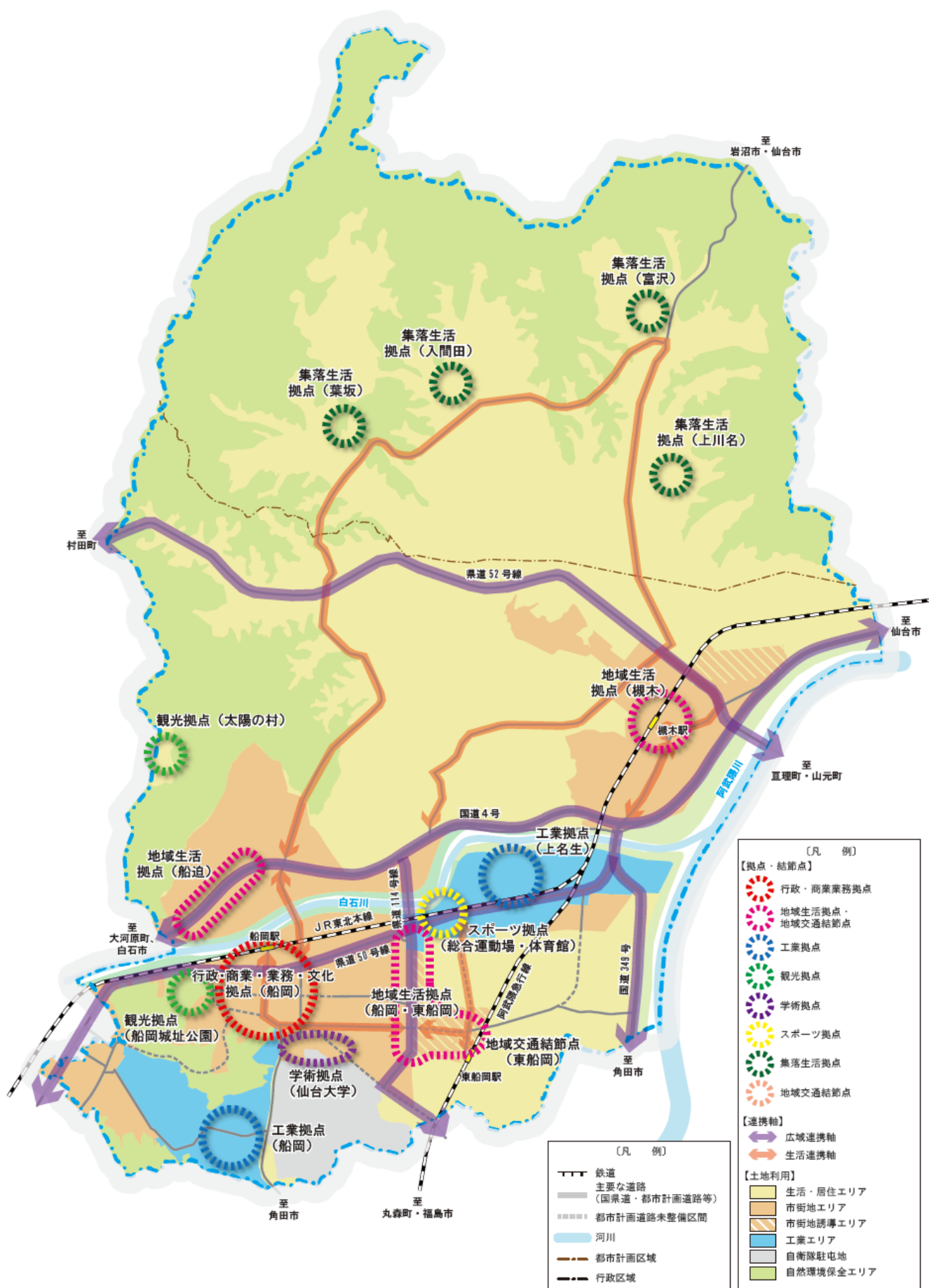
注) 上位計画等による位置づけ欄凡例

- ・区域MP：仙南広域都市計画区域マスタープラン
- ・景観MP：仙南地域広域景観マスタープラン
- ・総合計画：第6次柴田町総合計画
- ・立適：柴田町立地適正化計画の検討による位置づけ

■連携軸の配置・形成方針図



■将来都市構造図



(裏面白紙)